

整理番号 S-20

出 展 織物欠点解析事例集

欠 点 名 たて筋(燃異常)

品 名 ポリエステルブッチャー

試料形態 織物

組 織 平

糸 使 い

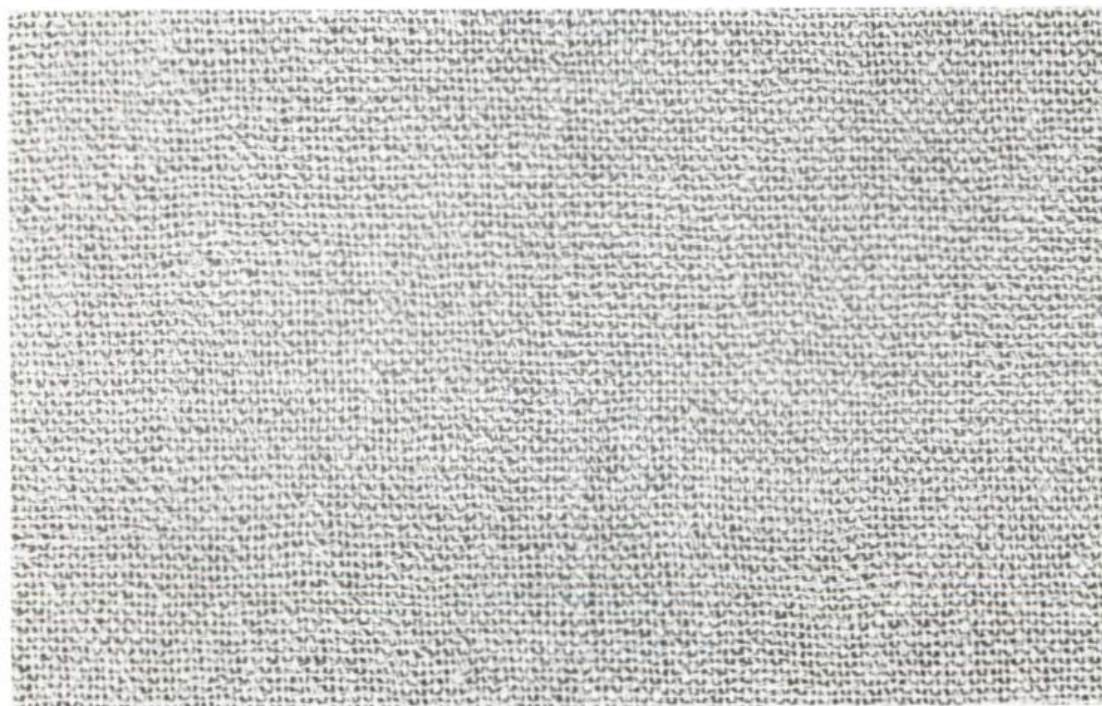
たて糸:ポリエステル 517d/2

よこ糸:ポリエステル 517d/2

欠点発生状況

たてに 1 本の筋が入っているが、反射光線では目立たず、透過光線で見るとはっきりと筋が入っていることが判る。この糸は仮燃機のフィード率変化により、糸に部分的な仮燃の斑を故意に作って太さ斑を生じさせている一種の意匠糸(ストラクチャーヤーンタイプ)である。また 25%の減量加工が施されている。

試料写真



試験結果

- (1) 織度測定
- (2) 強伸度測定
- (3) 撚数測定

(1) 織 度

	正 常 糸	欠 点 糸
双糸の見掛織度	975.5 d	903.9 d
解撚後の単糸	461.1 d	450.7 d

(2) 経糸強伸度（上撚解撚後の単糸）

	正 常 糸	欠 点 糸
強 度	647.4 g (1.4 g/d)	575.8 g (1.3 g/d)
伸 度	24.5 %	24.4 %

(3) 撚 数（上撚）

正 常 糸	欠 点 糸
370.7 T/m	68T/m

所 見

この織物組織を構成する双糸の見掛織度を測定したところ、正常糸で975.5dであったのに対して欠点糸は903.9dと大きな差があり、一見して織度差が原因となつての筋と思われたが、双糸の上撚を解撚し単糸にして織度を測定した結果、461.1dと450.7dであり、ストラクチャーヤーンであることから大きな差であるとはみられない。また強伸度については正常糸が1.4g/d、欠点糸が1.3g/d、で若干欠点糸が弱い。上撚数を比較すると正常糸が370.7T/mであるのに対し、欠点糸は68T/mと1/5以下の上撚数であり、このため筋欠点は上撚数の不足により生じた欠点であることが判明した。